

## 本邦および国外における正常圧水頭症の家族内発症例

加藤丈夫(1)、高橋聰美(1)、佐藤秀則(1)、森本芳郎(2)、小野慎治(2)、  
宮崎雅一(3)、新井一(3)、岐島直之(4)、桑名信匡(4)、貝嶋光信(5)、  
山田晋也(6)、青木和哉(7)、Ming-Jen Lee(8)、Evangelia Liouta(9)

(1)山形大学第三内科、(2)長崎大学精神科、(3)順天堂大学脳神経外科、  
(4)東京共済病院脳神経外科、(5)東み野病院脳神経外科、  
(6)東海大学大穂病院脳神経外科、(7)東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科、  
(8)Department of Neurology, National Taiwan University, Taipei、  
(9)Hellenic Center for Neurosurgical Research, Athens

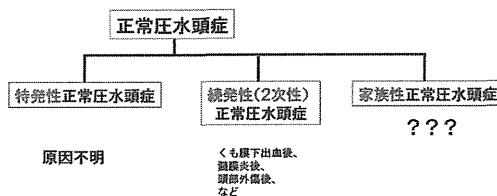
## 疾患の分類 (パーキンソン症候群を例にして)



原因不明

- 基礎疾患
  - 脳血管性パーキンソン症候群
  - 薬剤性パーキンソン症候群
  - 中毒性パーキンソン症候群
  - 正常圧水頭症
  - 多系統萎縮症
  - 進行性核上性麻痺
  - 大脳皮質変性症
  - 脳炎後、など
- 病因因子
  - $\alpha$ -synuclein (1997)
  - LRRK2 (1998)
  - UCH-L1 (1998)
  - DJ-1 (2003)
  - PINK 1 (2004)
  - LRK2 (2004)
  - ATP13A2 (2006)
  - Others

## 正常圧水頭症の分類



## Familial adult-onset NPH

Authors, year	Countries	Number of patients	Types of hydrocephalus	Shunt effect	Mode of inheritance
Portenoy et al, 1984	USA	2 cases (siblings)	？	？	？
Cusimano et al, 2011	Canada	2 cases (siblings)	？	？	？
Takahashi et al, 2011	Japan	8 cases general	特発性NPHと区別のつかないNPHが 遺伝子異常で発症することを示した初めての報告	？	？
McGirr et al, 2012	Canada	4 cases in 2 generations (proband, uncle & cousins)	communicating	+	not determined

## 目的

国内外の家族内発症のNPH例を収集

## 結果

### 国内のNPHの家族内発症例 (山形家系)

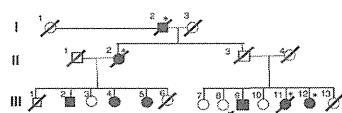
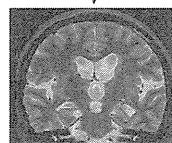
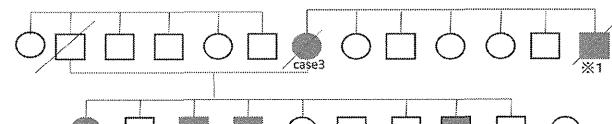


Fig. 1. Pedigree of the family. (○:□): normal woman/man; (●:■): woman/man with normal pressure hydrocephalus (NPH); (※:†): woman/man with suspicious NPH based on medical interview. (／): dead. The arrow (III-9) indicates the proband.

Takahashi et al : Familial normal pressure hydrocephalus (NPH) with an autosomal-dominant inheritance: A novel subgroup of NPH, based on medical interview. *J Neurol Sci* 308:149-151;2011.



### 国内のNPHの家族内発症例 (長崎家系)

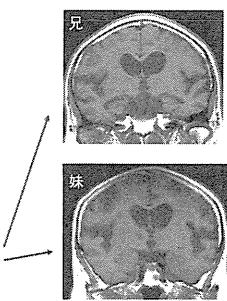


Case 1 55歳 女性  
高次脳機能障害(-)、歩行障害(+)、尿失禁(+)  
Tap testで3秒は改善

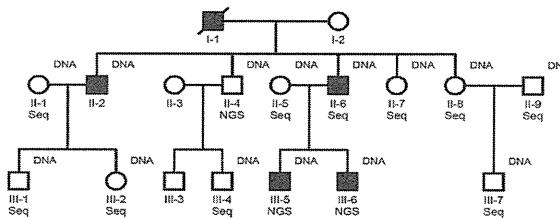
(長崎大学精神科 森本芳郎先生より提供)

## 国内のNPHの家族内発症例 (同胞例・親子)

	提供者(地域)	同胞/親子(年齢)
1	鼓島・桑名(東京)	兄(76)・弟(73)
2	鼓島・桑名(東京)	兄(75) 弟:他院で手術
3	宮崎・新井(東京)	弟 兄:他院で診察
4	宮崎・新井(東京)	弟 兄:10年前死亡
5	青木(東京)	兄(80)・弟(77)
6	山田(神奈川)	弟(78) 兄(87):県内で死亡
7	貝崎(北海道)	兄(70)・妹(67)
8	高橋(山形)	母(74): def. INPH 娘(50): AVM

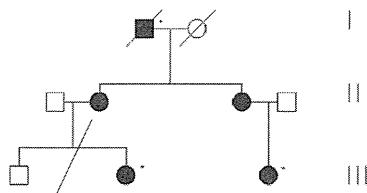


## 国外のNPHの家族内発症例 (台湾家系)



Personal communication with Dr. Ming-Jen Lee, Department of Neurology,  
National Taiwan University School of Medicine, Taipei, Taiwan

## 国外のNPHの家族内発症例 (ギリシャ家系)

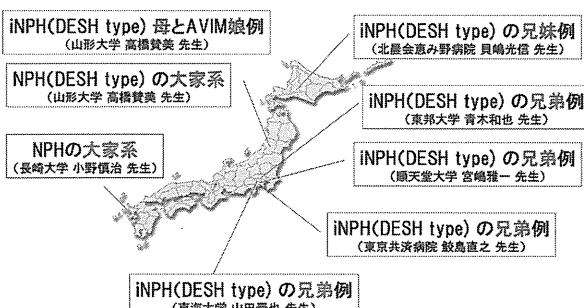


71歳 女性 (Evans index: 0.32)  
45歳より尿失禁(+)  
3年前より高次脳機能障害(+), 歩行障害(+)  
Shunt術で3ヶ月は改善

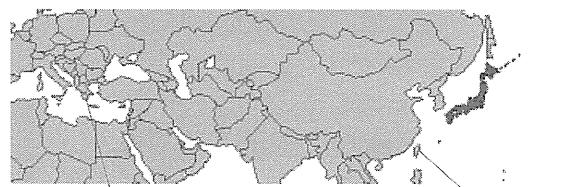
Evangelia Liouta et al: A novel case of familial normal pressure hydrocephalus.  
5th International Meeting on Hydrocephalus.  
29 June-2 July 2013, Athens

## 結果のまとめ

### 国内のNPHの家族内発症例



### 国外のNPHの家族内発症例



ギリシャ: 3世代にわたり  
5人の発症者がいる1家系

台湾: 3世代にわたり  
5人の発症者がいる1家系

5th International Meeting on Hydrocephalus.  
July 2013, Athens



## 結論

- 家族歴を詳細に取ることにより、特発性NPHと診断されていた患者の中に、家族性NPHが存在する可能性が示唆された。
- 遺伝子の突然変異により、特発性NPHと区別がつかないNPHが発症することが示唆された。
- NPHの分類に、「特発性」と「続発性」以外に、今後、「家族性」を加える必要があると思われる。

## DESH所見は家族性か？

高橋聰美、公平輝宗、島田弘明、猪俣龍佑、山口桂樹、佐藤秀則  
佐藤拓康、丹治治子、小山信吾、和田学、川辺透、施賀丈夫  
山形大学医学部第三内科講座

- ④ 2012年、McGirrとCusimanoは正常圧水頭症患者の血縁者は三徴のうち二つ以上を有する率が、対照群に比べ多いことを報告した
- ④ 孤発性と思われていたiNPH患者に遺伝的素因が関連する可能性を示唆する
- ④ これまでiNPH患者血縁者の画像的な検討は行われていない

### 背景(1)

McGirrとCusimanoの報告、2012

iNPH発端者20人の一親等血縁者(140人) vs

対照例21人の血縁者(151人)について比較

- ④ 歩行障害12.1% vs 5.3%, 排尿障害9.3% vs 5.3%, 記憶障害13.6% vs 4.0%
- ④ 歩行障害と排尿障害 4.3% vs 0.7%, 歩行障害と記憶障害 4.3% vs 0.0%, 記憶障害と排尿障害 4.3% vs 0.0%
- 全症状 2.9% vs 0.0% 2つ以上の症状 7.1% vs 0.7%

→有意にiNPH患者の血縁者で症状を呈する率が高い

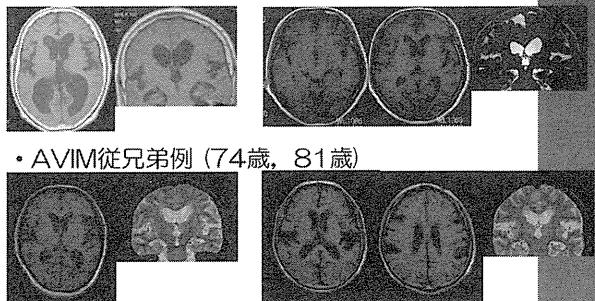
NPHに遺伝的素因の関与の可能性がある

- ④ 画像による検証はまだ報告されていない

### 背景(2)

当科で経験したDESH血縁者例

- ・家族性正常圧水頭症家系(画像を確認した6人)
- ・iNPH母、AVIM娘例(74歳、50歳)



### 目的

- ④ DESHは家族性に出現するかを検討する

### 方法

2011年3月から2013年9月に当院でシャント術を施行したdefinite iNPH患者のうち協力の得られた6人の血縁者について診察とMRI(T1, T2, FLAIR水平断とT1冠状断)を施行(山形大学医学部倫理委員会承認)

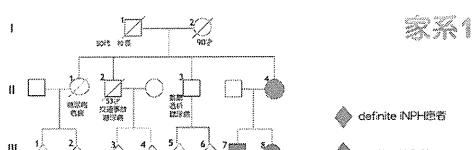
#### DESHの判断の基準(佐々木真理先生案)

	1) 脳室	2) 高位凹面部・正中部のくも膜下腔	3) シルビウス裂
a.	Evans index > 0.3 の脳室拡大	狭小化 (Right high convexity; THC)	拡大
b.	脳室拡大はあるが Evans index ≤ 0.3	狭小化も拡大もない	拡大も狭小化もない
c.	脳室拡大がない	拡大	狭小化

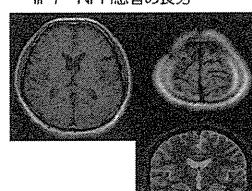
DESH: aが3 incomplete DESH: aが2, bが1 non-DESH: それ以外

### 結果

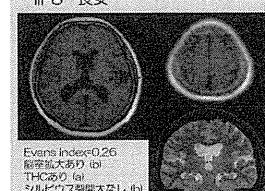
- ④ definite iNPH患者6例(家系1から6)の血縁者14人につき MRI検査、および可能な限り問診と診察を施行

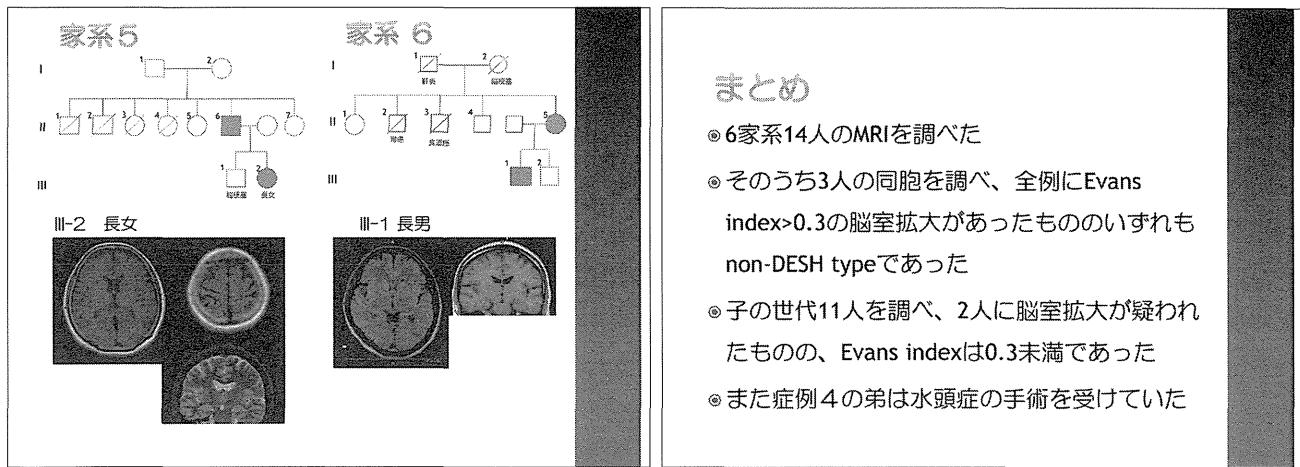
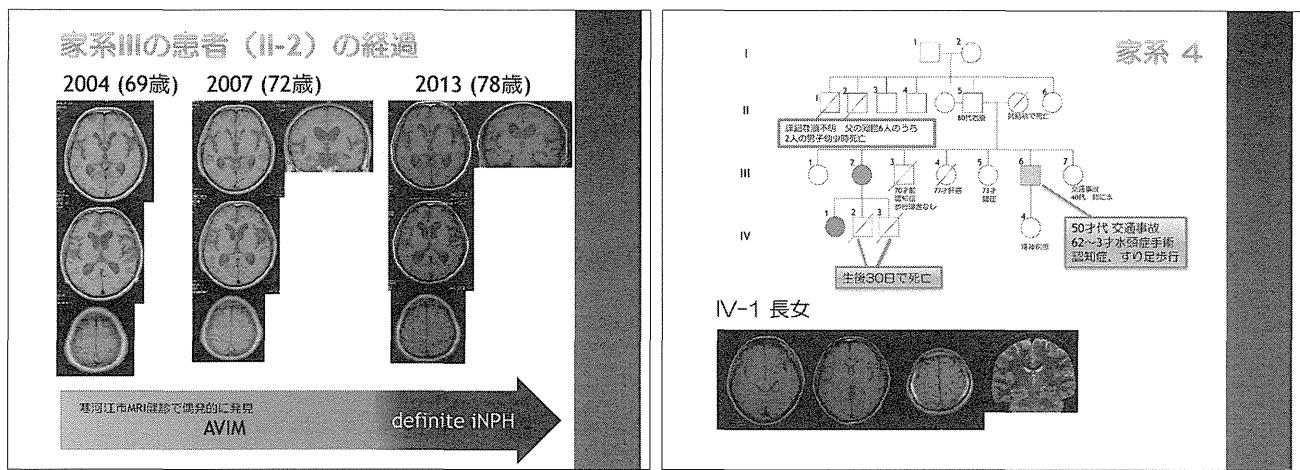
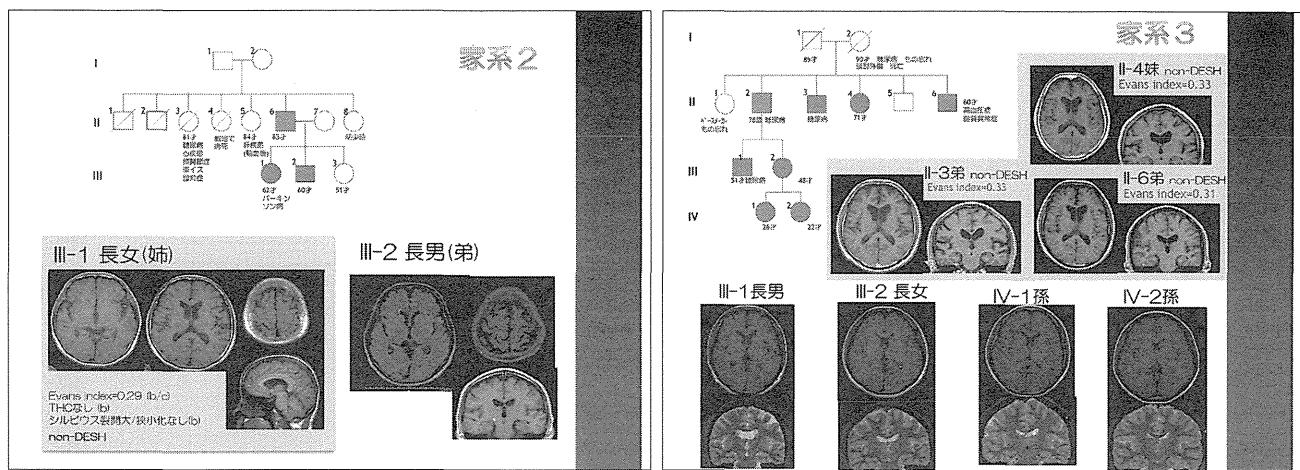


III-7 NPH患者の長男



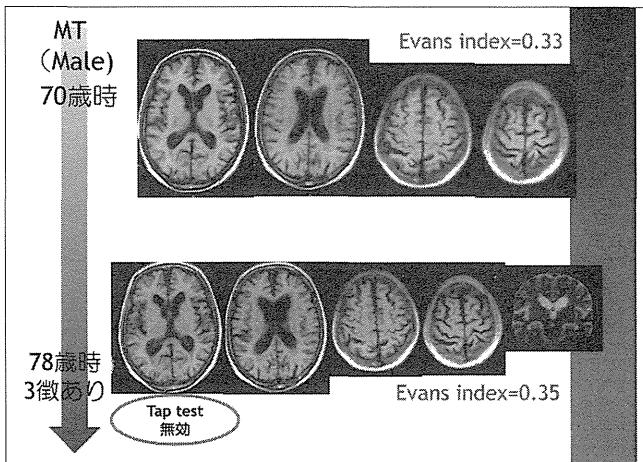
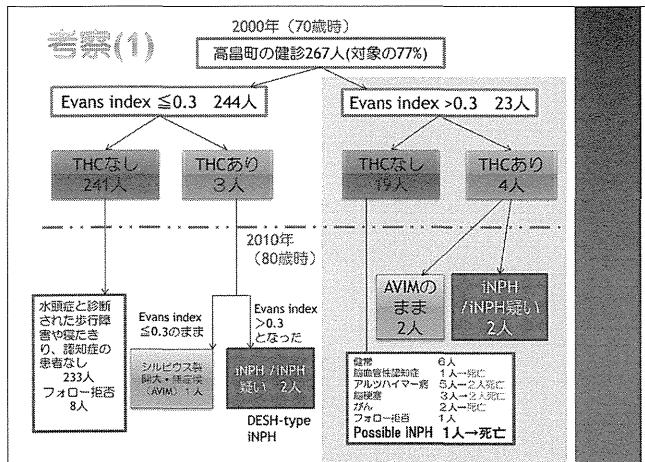
III-8 長女





### まとめ

- ◎6家系14人のMRIを調べた
- ◎そのうち3人の同胞を調べ、全例にEvans index>0.3の脳室拡大があったもののいずれも non-DESH typeであった
- ◎子の世代11人を調べ、2人に脳室拡大が疑われたものの、Evans indexは0.3未満であった
- ◎また症例4の弟は水頭症の手術を受けていた



## 考察(2)

- ◎ definite iNPH6人の血縁者14人のうち、同胞3人中全例がEvans index>0.3であった
- 子の世代では11人中2人に脳室拡大が疑われた
- いずれもnon-DESHであった
- ◎ 検討した血縁者は同胞も含め患者より年齢が低いiNPHに関連する症状は認められないが今後の発症もあり得る

## 結語

特発性正常圧水頭症患者の家族に画像検査を行い、脳室拡大を呈する血縁者が存在した

今回の検索対象者中にはDESH所見は認められなかったがさらなる検索が必要である

脳脊髄圧波形解析による頭蓋内コンプライアンス評価の試み  
水頭症実験動物モデルにおける頭蓋内圧波形解析の評価

聖マリアンナ医科大学 脳神経外科  
大塩恒太郎 小野寺英孝

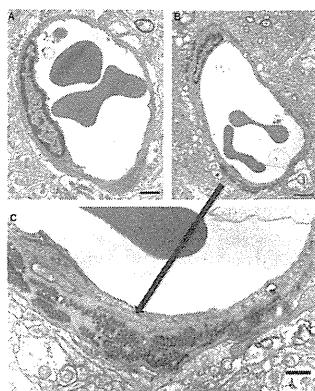
原生 労働省科学研究費助成金 地方住民研究事業  
特発性正常圧水頭症の病因と診断・治療に関する研究 2013.1

特発性正常圧水頭症の病因と診断・治療  
に関する研究

【目的】我々は自然発症型糖尿病モデルratの脳組織学的変化として、脳細動脈レベルにおける基底膜の変化的評価と、頭蓋内圧波形解析による脳コンプライアンスの評価を研究してきた。

これまでの報告で、糖尿病による形態変化として、電子顕微鏡レベルにおける基底膜の肥厚ならびに線維化増生を報告し、且つ頭蓋内圧波形解析を用いてDMラットの脳コンプライアンス低下の根拠として頭蓋内圧微分波形成分U2/U1比の上昇が挙げられると報告をおこなった。

同様の基底膜肥厚性変化、頭蓋内コンプライアンスの変化が、自然発症型高血圧ラットでも認められるのかについて評価を行った。



Photomicrograph of the ultra structure of the microvasculature from control rats (A) and DM rats (B). The basement membrane from DM rats (C) is thickened and fibrous collagen is observed internally within the basement membrane.  
Bars: A, B: 1 μm; C: 0.5 μm

"ICPWF and Morphology in DM"

The pathological changes of Basement membrane thickning in past reports.

Disease	Pathological findings	
Hypertension	Reduplication	?
DM	Reduplication	Collagenosis
Aging		Collagenosis

DM may accelerate the aging process?

## 【対象と方法】

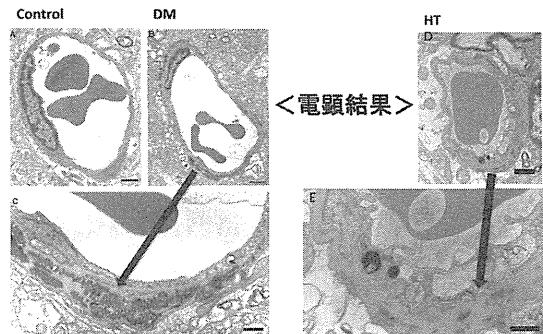
週齢67週の自然発症高血圧ラット(spontaneous hypertension rat: SHR)を用い、電顕病理組織学的検討を行った。特に細小動脈の変化を観察すべく、0.2% oolong tea extract (OTE)を行った。

SHR (spontaneous hypertension rats); Three male SHR rats (diabetic strain of Wistar Kyoto (WKY) rats, originally supplied by Dr. K Okamoto (Kinki University).

Male systolic BP 160mmHg (@ 4months of age)

67週齢 体重 350~450g

特発性正常圧水頭症の病因と診断・治療  
に関する研究



Photomicrograph of the ultra structure of the microvasculature from control rats (A), DM rats (B) HT rats (D). The basement membrane from DM rats and HT rats (C) is thickened and fibrous collagen is observed internally within the basement membrane. Bars: A, B, D : 1 μm; C, E : 0.5 μm

特発性正常圧水頭症の病因と診断・治療に関する研究

## 【結果】

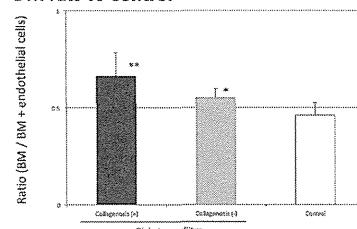
The pathological changes of Basement membrane thickning in this reports.

- 電顕的病理組織検討では脳細動脈において基底膜肥厚の所見を認めた。また、OTE染色にて肥厚した基底膜内に線維化構造の増生を認めた。

Disease	Pathological findings	
Hypertension	Reduplication	Collagenosis
DM	Reduplication	Collagenosis
Aging		Collagenosis

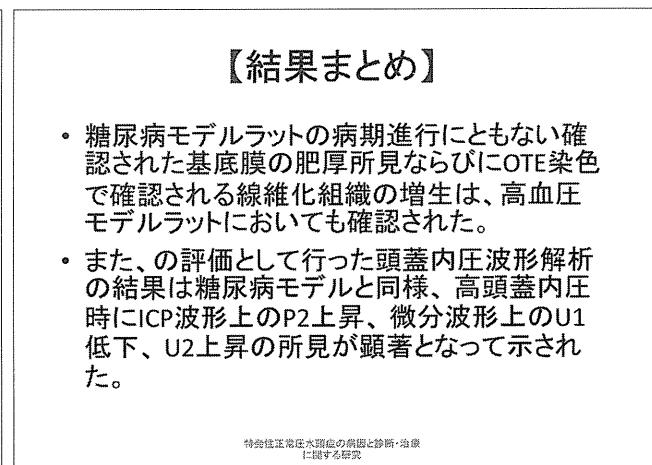
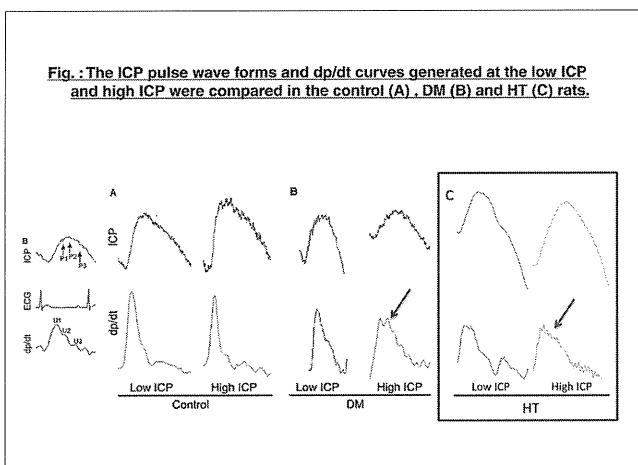
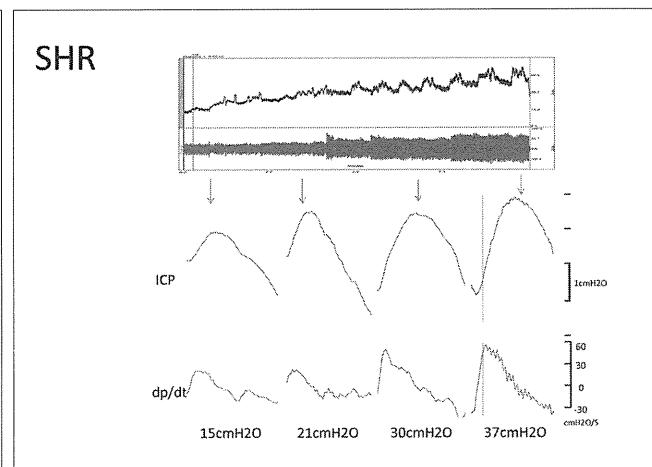
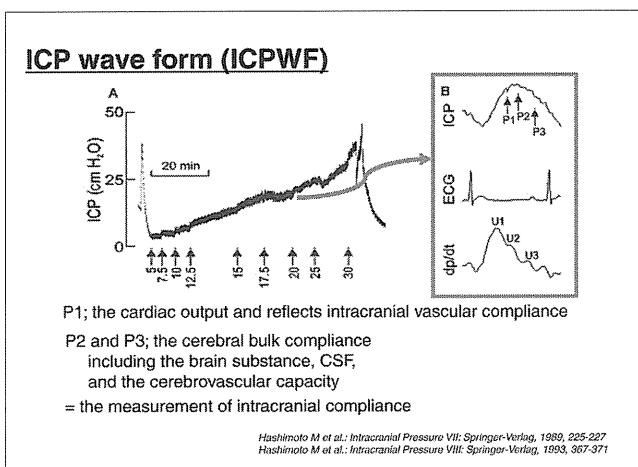
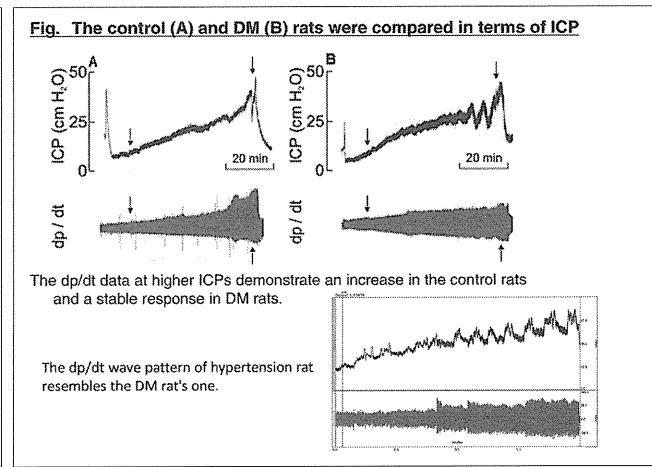
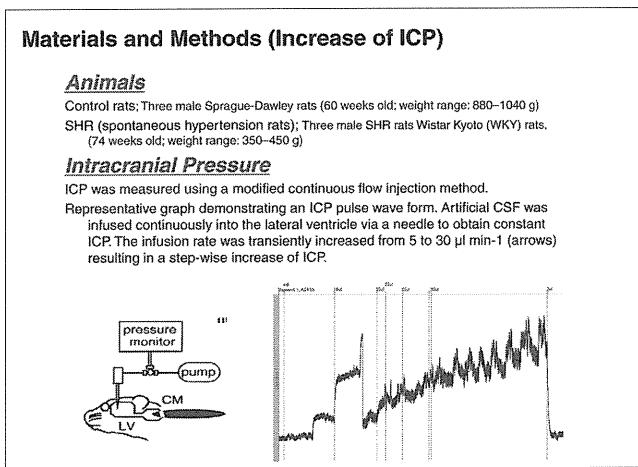
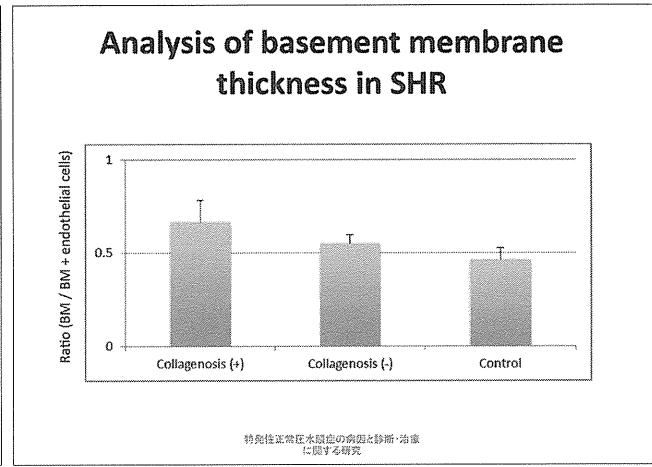
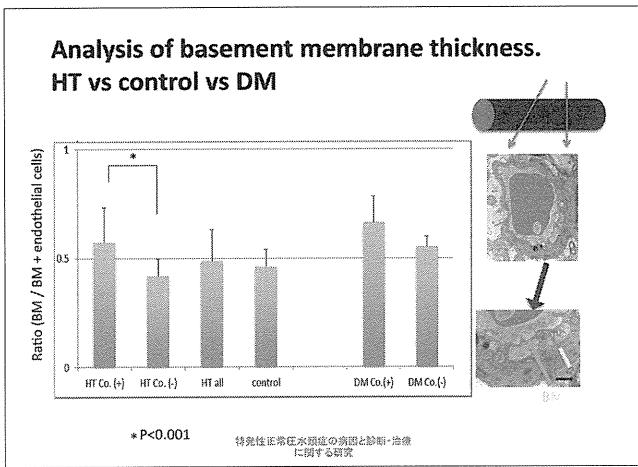
### Analysis of basement membrane thickness.

#### DM rats vs Control



The white box indicates the control rats. The diabetic rats were divided into those with changes of collagenosis (black box) and without fibrous collagen (gray box) ( $p < 0.01$ ,  $p < 0.05$ , respectively).



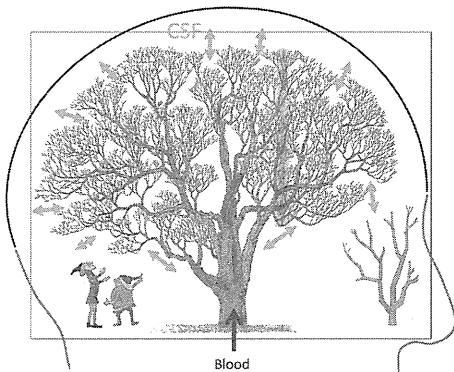


## 【結論】

- ・高血圧モデルにおいても、加齢、アルツハイマー病で認められる変化、すなわち脳細動脈レベルでの基底膜の“肥厚”と“線維化”所見が糖尿病モデル同様、比較的若年で認められる。
- ・高血圧ラットにおける頭蓋内圧波形解析の結果も、糖尿病ラットに類似し、頭蓋内コンプライアンス低下を示唆する結果が再現された。

特発性正常圧水頭症の発症と診断・治療  
に関する研究

The image of intracranial compliance via small vascular structure.



## 特発性正常圧水頭症の神経病理所見と ビンスワンガー病との比較検討

宮田 元<sup>1)</sup>, 龍福雅恵<sup>1)</sup>, 大浜栄作<sup>2)</sup>

1) 秋田県立脳血管研究センター 脳神経病理学研究部  
2) 社会医療法人 倉敷平成病院・倉敷老健

### iNPHのリスクファクター

1. 高血圧
2. 糖尿病
3. 低HDLコレステロール

病態機序に血管障害が関与している可能性が指摘されている

特発性正常圧水頭症診療ガイドライン(第2版、2011年)

### Autopsy cases of iNPH in the literature

1) Meningitis	1
2) Parkinson's disease	1
3) Progressive supranuclear palsy	1
4) Alzheimer's disease	6
5) Another primary degenerative disease	4
6) Hypertensive cerebrovascular disease	12
7) Binswanger's disease	1

大浜ら. 特発性正常圧水頭症の病態と治療指針. 1993 より改変

### Three autopsy cases of iNPH

#### Population characteristics

年齢	性	診断	罹病期間	手術	高血圧
68歳	男	probable	6ヶ月	なし	あり 詳細不明
78歳	男	definite	2年9ヶ月	LP-shunt 有効	あり 詳細不明
75歳	女	definite	15年 初回手術後11年 追加手術後4年	VP-shunt 初回手術有効 追加手術無効	あり 手術後11年間 は正常血圧

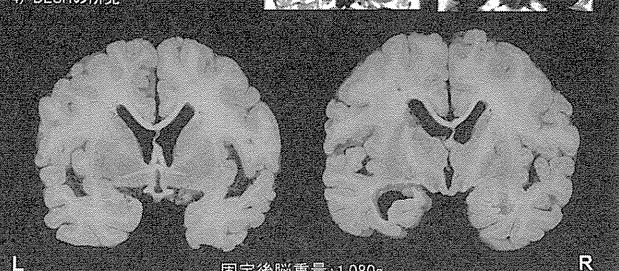
### iNPHの神経病理学的特徴～Binswanger病との比較～

	INPH	Binswanger's disease
DESHの肉眼所見	あり	なし (自験23例)
大脳白質病変	脳室周囲、深部、脳回内白質	深部白質
U線維	病変になり得る	保たれる
内面を膠原線維で 覆われた囊胞化変化	あり得る	なし
アテローム硬化	あり	あり
小動脈・細動脈硬化 毛細血管周囲硬化	病変部白質、くも膜下腔	深部白質、基底核、視床、 橋底部
フィブリノイド変性 血管壊死 小動脈瘤	3例中1例のみに ごく軽度のフィブリノイド変性	顕著
ラクナ梗塞	(-)～軽微	多い (22/23例)

### CASE 1: 68M, probable iNPH, 6 months clinical course

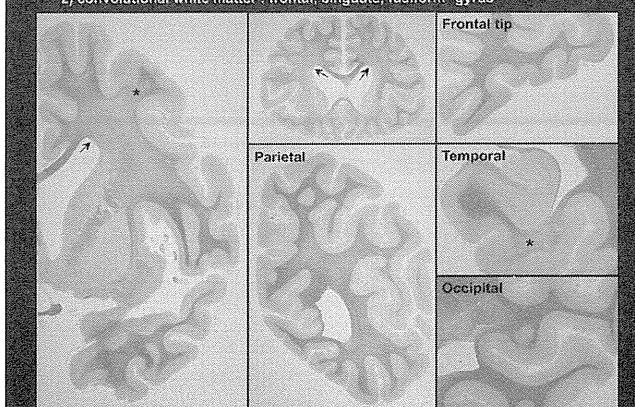
#### AUTOPSY FINDINGS

- 1) 外表所見に特記すべき異常なし
- 2) 頭蓋内圧亢進所見なし
- 3) くも膜の肥厚や癒着なし
- 4) DESHの所見



#### Loss of myelin staining in ...

- 1) cerebral deep and periventricular white matter : F-convexity, P>O>F-tip, T
- 2) convolutional white matter : frontal, cingulate, fusiform gyrus



#### Mild rarefaction and gliosis / frontal deep white matter

